

皆で意見導きだそう

敦賀、丸岡、美方、藤島、高志、羽水、鯖江、武生東、そして武生。9高校75人の生徒が参加し、課題研究の発表やお互いの気づきを各自の研究に生かす交流発表会が12月27日、武生高の呼びかけで同校で開かれた。

「1人では出せない意見を、みんなで導き出せる会に」と、武生、武生東、羽水の3校の生徒が実行委員会をつくり運営内容を協議してきた。参加生徒は「他校の生徒の前での発表は緊張したけど、次の研究につながる質問をもらってありがたかった」と話していた。

武生高で9高合同探究発表会



9校75人の生徒が研さんし合った発表会＝武生高

「自然科学系」「人文社会系」「SDGs・地域・企業連携」の3部門でポスターセッションに9組、口頭発表に6組、事例研究に1組が挑んだ。美方高の青池美咲さん、八木瑞季さんは、戦火のウクライナから若狭町へ避難民を受け入れようとする取り組みを報告。住居や仕事の確保など必要な条件などを調べ、お互いにプラスになる受け入れ態勢などを探った。

武生高の嶋崎光祐さんから5人のグループは、福井の若者の選挙投票率は全国でも低い現状を調べ、投票率を高めるために、ネットを活用し若者のプラットフォームをつくりたいと提案した。

子育ての負担を減らすため食事づくりの時間を削減する案や家事負担の男女差をなくす案を提唱した羽水高グループなど、身近な課題解決の調査提案のほか「食品廃棄物から髪を保護する物質の抽出」「メタカの産卵数の変化条件」といった研究発表もあった。

実行委の15人は司会や交流会でのファシリテーターを務めた。開催は3回目。武生高の辻崎千尋教諭は「大きな大会発表へ慣らしていく機会に」とし、さらに「さまざまな学校の生徒、さまざまなお見方が集まって多角的な検証、多角的な物の見方を知る場になれば」と話した。

(菊野昭彦)